



## 稲葉・玉来ダムとともに振り返るダム事業の推移と今後の展望

泊 宏\*

大分県で建設されていた稲葉ダムが平成22年度に、玉来ダムが令和4年度に完成しました。本稿では、両ダムの経緯と併せて、全国のダム事業の推移を振り返るとともに、今後のダム事業の展望について考えていきます。

大分県竹田市市街地を貫流する稲葉・玉来川沿いでは、昭和57年7月の集中豪雨及び平成2年7月の梅雨前線豪雨で、合わせて12名の尊い命が奪われ、多くの家屋、農地が浸水し、道路、鉄道が途絶するなど、大きな被害が発生しました。この2度の水害を契機に、竹田市街地上流に稲葉ダムと玉来ダムを建設する「竹田水害緊急治水ダム建設事業」が平成3年度に事業採択され、河川改修とダム建設を組み合わせた治水対策を行うことになりました。

平成3年度は、全国で約30事業が新規に着手されるなど、各地でダムの建設が進められていた時代でした。その後、ダム事業に対しては厳しい目が向けられ、平成21年に政権交代があり、全国のダム事業の検証が行われました。

本体工事が進められていた稲葉ダムは検証の対象となりませんでした。玉来ダムについては対象となり、検証の結果、平成23年10月に「継続」が決定しました。河川改修については平成12年に概成し、稲葉ダムは平成22年度に完成しており、その後、平成24年九州北部豪雨が来襲しました。この時、既に完成していた稲葉ダムの下流域では、被害が最小限に食い止められた一方で、玉来川流域ではまたも甚大な被害が発生しました。その後、わずか1年で約9割の面積の用地買収契約が進むなど、地元の協力を得て、平成29年に玉来ダムの本体工事に着手しました。

この頃、国土交通省でダム建設事業に携わっており、地元の皆様が国土交通省幹部（政務三役）に要望される場に立ち会う機会がありました。国土交通省の政務三役（大臣、副大臣、政務官）は、毎日のように10分刻みのスケジュールで全国の河川、道路、港湾事業などの要望に対応されます。水害の経緯、稲葉ダム効果への御礼、玉来ダム早期完成の要望をお聞きになり、地元の皆様がお帰りになった後に「たいへん切実で、説得力のある要望だったね」とお話されていたのが印象的でした。

令和4年8月に主要工事を終え、9月から試験湛水が開始され、その直後に台風14号が襲来しましたが、流入量のほぼ全量を貯留し、浸水被害はありませんでした。令和4年11月に開催された竣工式の際に、「台風をしっかりと

\* 一般財団法人 ダム技術センター 理事長

受け止めて満水となった玉来ダムを見て、これまでのことを思い返し、胸が熱くなった」というお話を地元関係者の方から伺いました。

試験湛水開始直後に台風が来襲したという、八ッ場ダムを思い出します。令和元年10月に試験湛水を開始し、直後に来襲した東日本台風のほぼ全量を貯留し、大きな効果を発揮しました。「よくこのタイミングでこのような雨が降るものなのか」と思いましたが、考え方を変えると、多くの方のご協力、ご尽力があったからこそ、この台風間に合ったと言えます。ダム事業の検証後に基本計画を変更し、工期を平成31年度とした際に「この工期で完成させるのは簡単なことではない」と身が引き締まる思いでしたが、ほぼ工期どおりに事業が進められました。効果発揮の報を耳にして、ご協力を頂いた方々、事業の進捗に汗をかかれた方々、多くの方々の顔が頭に浮かびました。玉来ダムでも、多くの皆様の力があってこそ、今回の台風間に合ったのだと思います。関係者の皆様に心から敬意を表します。

さて、玉来ダムは、洪水調節のみを目的とし、「流水型ダム」として建設されました。また、稲葉ダムもそうですが、玉来ダムの建設地は火砕流堆積物を主体とし、強度や透水性が異なる堆積物が複雑に分布し、止水や岩盤強度に多くの課題があり、カーテングラウチングによる止水対策や造成アバットメントにより堤体の安定を図るなどの対策を講じて建設されました。

現在、各地でダムの建設が進められています。建設中のダム、建設を予定しているダムには、地形や地質などに様々な課題を抱えているダムが多くあります。また、流水型ダムの事例も増えてきていますが、計画、設計、施工、管理等にまだまだ多くの課題があります。

毎年のように各地で甚大な災害が発生し、地球温暖化による気候変動が現実のものとなっていることを実感します。また、エネルギーを取り巻く情勢も大きく変化してきています。既設ダムを有効に活用することを含めて、ダムが果たすべき役割は、より一層重要とってきています。

これまで建設してきたダムは確実に効果を発揮しています。ダムに携わる本会議関係者は、様々な課題の解決を図り、ダムの建設、改良、運用を通じて社会に貢献していくことがますます必要とってきているのではないのでしょうか。

末筆ながら、スウェーデンのヨーテボリで開催された国際大ダム会議年次総会に参加された皆様、準備にご尽力を頂いた皆様、たいへんお疲れ様でした。また、角教授の副総裁就任に、改めてお祝いを申し上げますとともに、今後の御活躍を祈念いたします。